

竹田方面研修

小野 英治

(会員 佐伯市弥生)

平成二十二年四月十六日午前八時、大分県南部振興局前を出発し途中三余館、鶴岡、弥生と停車して総勢二十四名(運転手含)、マイクロバスで竹田に二時間ほどで到着し、最初に岡城を訪れた。
 国指定の岡城は最近整備が進み、城の形が明確にわかる様になった。

岡城の城郭は、ほぼ東西に延びる台地上に展開する総面積は二三、四ヘクタールに及ぶ大規模な山城である。

これは、城内に重臣屋敷を配置し、平野部に恵まれなかった地形からきている。

城と城下町が直結しないのは不便であるが、周囲は断崖と川(稲葉川・白滝川)で囲まれた難攻不落の名城である。



これが、現在の規模になったのは、文禄二年(一五九三)播州三木から七万石余りで入部した中川秀成により大改修されたものである。

さらに、寛文四年(一六六四)中川久清が西の丸を増築してからである。

私たちは、大手門から三の丸、二の丸、本丸、そして搦

もつとも、天正十四年(一五八六)の島津軍三万余に攻められた当時、城主志賀親次が守備した岡城は、現本丸の東北(右端)下原門を大手とした御廟所跡あたりと言われ、もちろん石垣もない天然の要害を利用した小規模なものであったらしい。

手門の下原門まで行き、西の丸重臣屋敷では、平面復元を興味深く見学、近戸門經由で駐車場に戻った。

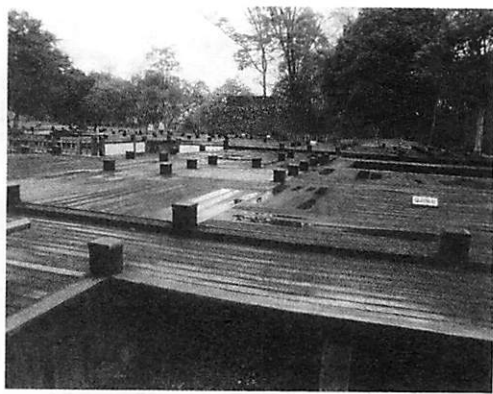


〈下原門〉中川氏が入部した文禄三年まで挟田、^{ほさだ}十川^{とうがわ}が城下町で、この下原門が正門でした。その後、加藤清正公の指示により現在の西側に移されたと言われている。

(1) 中川秀成^{ひでしげ}（二五七〇〜一六一二）慶長元年に本丸、二の丸、三の丸を中心とした曲輪と大手門、近戸門を造る。

(2) 中川久清（二六一五〜一六八一）岡藩三代藩主。入山公と号す。

〈西の丸重臣屋敷Ⅱ中川覚左衛門家跡〉



これは、西の丸にある中川覚左衛門家の屋敷跡で、寛保元年に、中川覚左衛門廣安が家老として千五十石を拝領した屋敷跡である。

中川覚左衛門家は茶道織部流の祖、古田織部

正重勝の子孫である。

藩主中川家に代々仕え、中川の姓を給わり延享二年（一七四五）に、此の地に移った。

その後、廣瀬神社、竹田資料館を見学して、茶房御客屋（岡藩時代 藩宮宿泊所）で昼食した。

この茶房御客屋は、かつて伊能忠敬も宿泊したといわれる由緒ある建物で、この地での食事は好評であった。

〔茶房お客屋敷〕



邸内には、明治二年の
百姓一揆の鉈傷長刀傷
が残っている。



お客屋敷は、御使者屋
とも言われ、他藩からの
士分以上のものの宿泊所
である。別名・鴻臚館、聴
雨亭とも言われ、迎賓館
の役割もはたしていた。



食後、滝廉太郎記念館、竹田荘、岡藩主のおたまや公園
から白水ダム、白水の滝、円形分水を見学して帰途につい
た。白水ダムは残念ながら水を落としており、優雅な水流
は見られなかった。
また、白水の滝も時間の関係で一部しか見られなかつ
たが、円形分水は、豊富な水が等分に給水される施設とし
て全国的に有名で水争いが無くなったと言うからすこ
い。

白水の滝の水を引いた
円形分水と研修参加者

